

METROPOLITAN 04

JAZZ Tokyo needs some jazz now



公演詳細



TOKYO PIANO NIGHT

小曾根真
大林武司
壺阪健登
シャイ・マエストロ
アマロ・フレイタス

2024
6.27^{THU}

open 17:00 start 18:00

Tokyo Metropolitan Theatre
Concert Hall

チケット

S席 8,500円

A席 7,000円

チケットぴあ <https://w.pia.jp/t/metropolitan-jazz-vol4/>
Pコード: 265-219

ローソンチケット <https://l-tike.com/metropolitan-jazz/>
Lコード: 72322

イープラス <https://eplus.jp/metropolitan-jazz/>

東京芸術劇場ボックスオフィス

電話 0570-010-296 (休館日を除く10:00~19:00)

※国際電話および一部のIP電話・プリペイド方式の携帯電話からはご利用いただけません。

窓口 営業時間: 休館日を除く10:00~19:00

WEB <https://www.geigeki.jp/t/> ※24時間受付(メンテナンスの時間を除く)



Makoto
Ozone

©Matsuki Kohei



Takeshi
Ohbayashi



Kento
Tsubosaka



Shai
Maestro



Amaro
Freitas



Banksia Trio & Friends FUTURE IS HERITAGE

燃えることによるのみ種子が播かれるという、オーストラリア原産の不思議な花“バンクシア”その風変わりな繁殖戦略に魅力を感じて命名された、今の時代を駆ける美しいグルーブと疾走感に溢れた日本の現代ジャズシーンを代表する無敵のジャズトリオが、脈々とつながるジャズのヘリテージと未来を結ぶ仲間とともにお届けする一夜限りのコンサート——

Banksia Trio 2017年に須川崇志(bass)が林正樹(piano)、石若駿(drums)に声をかけて結成されたジャズトリオ。同年8月8日に最初のライブが都内老舗ジャズクラブ「Body and Soul」で行われる。2020年1月には、Days of Delightより1stアルバム「Time Remembered」を発表。“比類なき疾走感、そして圧倒的な美しさ” 須川崇志と石若駿が紡ぎ出すうねりのなかを林正樹がリリカルに駆け抜ける、全く新しいジャズピアノトリオ”などの高評価を得る。翌年2月18日に、同レーベルより2ndアルバム「Ancient Blue」を発表。今までに2度のアルバムリリースツアーで、コットンクラブジャパン、高崎芸術劇場、パーシモンホールなどを含む国内各所でのライブ公演の他、スタジオレコーディングサポートも多数行っている。近年では、2021年4月にソニーミュージックよりリリースされたヴォーカリストYUKIの最新作「Terminal」収録曲「泣かない女はいない」や、同月放送開始の松たか子主演カンテレ・フジテレビ系ドラマ「大豆田とわ子と三人の元夫」の音楽制作に参加(音楽:坂東祐大)。Banksia Trioの持ち味である柔軟で幅広い音楽性と強力なグルーブを生かした演奏によるサポートで制作サイドからも好評を得ている。

須川 崇志 / Takashi Sugawa (Bass, Cello)

群馬県伊勢崎市出身。11歳の頃にチェロ、18歳でジャズベースを始める。2006年、パークリー音楽大学を卒業後に移住したニューヨークでピアニスト菊地雅章氏に出会い、多大な影響を受ける。2009年に帰国後、辛島文雄トリオを経て日野皓正バンドのベーシストを6年間務める。現在は峰厚介カルテット、本田珠也トリオ、八木美知依トリオ他多くのグループに参加。これまでに東京ジャズ、デトロイト、モントルー、プリズベン、メルス、香港などの数多くの国際ジャズフェスティバルに出演。近年は、Audi A5新車発表会での楽曲制作と演奏(2017)、岡本太郎記念館の企画展「日本の原影」のためのソロ楽曲制作(2019)や、俳優の金子あいの舞台「平家物語」に即興演奏で参加。米津玄師「ゆめうつつ」、YUKI「泣かない女はいない」(2021)などレコーディング参加作品も多数。また2018年にデビューアルバム「Outgrowing」(レオ・ジェノヴェーゼ、トム・レイニー)を、2020・21年にBanksia Trioで「Time Remembered」「Ancient Blue」の3作のリーダーアルバムをリリースしている。

林 正樹 / Masaki Hayashi (Piano)

ピアニスト、作曲家。自作曲を中心とするソロでの演奏や、生音でのアンサンブルをコンセプトとした「間を奏でる」などのプロジェクトの他に、小野リサ、マレー飛鳥、徳澤青弦、藤本一馬、akikoなど様々な音楽家とアコースティックな演奏活動を行なっている。「渡辺貞夫クインテット」「須川崇志Banksia Trio」「菊地成孔とペペ・トルメント・アスカラル」「クアトロシエントス」などのグループにも在籍。多種多様な音楽的要素を内包した、独自の諧謔を孕んだ静的なソングライティングと繊細な演奏が高次で融合するスタイルは、国内外で高い評価を獲得している。三宅純、椎名林檎をはじめ多岐に渡るアーティストのスタジオワークにも数多く参加。作曲家としては2016年舞台「書く女」(主演:黒木華 / 作、演出:永井愛)、2017年舞台「オーランドー」(主演:多部未華子/演出:白井晃)、2021年公開の映画「すばらしき世界」(監督、脚本:西川美和、主演:役所広司)の音楽を担当。

石若 駿 / Shun Ishiwaka (Drums)

1992年北海道生まれ。東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校打楽器専攻を経て、同大学を卒業。卒業時にアカンサス音楽賞、同声会賞を受賞。リーダープロジェクトとしてAnswer to Remember、SMTK、Songbook Trioを率いる傍ら、くるり、CRCK/LCKS、Kid Fresino、君島大空、Millennium Paradeなど数多くのライブ、作品に参加。また近年の活動として、山口情報芸術センターYCAMにて、音と響きによって記憶を喚起させることをテーマに、細井美裕+石若駿+YCAM新作コンサートピース「Sound Mine」を発表。アッセンブリッジ・ナゴヤにて、旧・名古屋税関港寒全体をステージとした回遊型パフォーマンス「石若駿×浅井信好ライブセッション」を行う。自身のソロ演奏が、山本製作所100周年記念モデル「OU-オウ」CM、フィガロジャポン新連載「山田智和監督「虹の刻 第15章」のオンラインスペシャルムービー、建築家 妹島和世氏設計による大阪芸術大学アートサイエンス科新校舎のドキュメンタリーに抜擢されるなど活動は多岐に渡る。

FEATURING SPECIAL GUESTS

日野 皓正 / Terumasa Hino (Trumpet)

1942年東京生まれ。9歳よりトランペットをはじめ、13歳の頃は米軍キャンプのダンスバンドで活動を始める。1967年の初リーダーアルバムをリリース以降、マスコミに「ヒノテラ・ブーム」と騒がれるほどの注目を集め、国内外のツアーやフェスティバルへ出演。1975年、NYへ渡り居をかまえ、数多くのミュージシャンと活動を共にする。その後もヒットアルバムを連発、CM出演、雑誌の表紙を飾るなど多方面で活躍。1989年、名門レーベル「ブルーノート」と日本人初の契約アーティストとなる。1990年以降、「アジアを一つに」という自身の夢のもと、アジア各国での活動を積極的に行う。2000、01年、日野皓正カルテット(ローランド・ハナ、ロン・カーター、ジャック・ティジョネット)にてアルバムを2枚リリースし、全国ツアーを行う。2007年、盟友・菊地雅章(pf)と、日野は菊地クインテット&デュオの2枚のアルバムを同時発売。2023年、80歳を記念した全国ツアーを行う。2001年、芸術選奨「文部科学大臣賞」受賞。2004年紫綬褒章、文化庁芸術祭「レコード部門 優秀賞」、毎日映画コンクール「音楽賞」受賞。2019年 春の叙勲 旭日小綬章受章。また近年はチャリティー活動や後進の指導にも情熱を注ぎ、個展や画集の出版など絵画の分野でも活躍が著しい。唯一無二のオリジナリティと芸術性の高さを誇る日本を代表する国際的アーティストである。

峰 厚介 / Kosuke Mine (Tenor Saxophone)

1944年東京生まれ。中学時代にクラリネットを始め、17才頃にアルトサクスを始める。1969年にピアニスト菊地雅章のバンドに入団。1970年には初のリーダーアルバム「MINE」を発表する。1971年にはピアノのMal Waldronの日本公演及びライブレコーディングに参加、また菊地雅章とJoe Hendersonのコンサートにも参加する。この年よりテナーサクスも始める。1973年菊地雅章バンド解散後、ニューヨークに2年間滞在、1976年にはGil Evansオーケストラの日本公演にアルトプレイヤーとして参加する。1978年には本田竹広らとネイティブ・サンを結成し、ジャズ・フュージョングループとして人気を博す。1983年にはサンパウロ、モントルーのジャズフェスティバルに出演、ニューヨークのクラブでもライブを行う。その後、板橋文夫、井野信義、村上寛の3人と結成したFour Soundや宮裡雅彦のJ.J. Spiritsなどを経て1992年自己のリーダーグループ峰クインテットを結成、1993年にリリースした「Major to Minor」で、この年のスイングジャーナル誌ジャズディスク大賞の日本ジャズ賞を受賞する。1996年には同グループでニューヨークのクラブ「バードランド」に出演。1997年には3枚目のアルバム「Balancez」を出す。2019年には自己のカルテットによるアルバム「Bamboo Grove」を発売。渋谷毅オーケストラをはじめ数多くのセッションに参加している。同年、イギリスのレコード会社BBEより初期のアルバム「FIRST」が再発された。

堀米 綾 / Aya Horigome (Harp)

東京藝術大学卒業。同声会新人賞受賞。現在「菊地成孔&ベペトルメントアスカラル」、林正樹氏率いる「間を奏でる」「アンサンブル東風」メンバー。またサクソフォン/江川良子氏、二十五弦箏/中井智弥氏とのデュオや、ソロ、室内楽等で各地にて公演、オリジナル作品を含む複数のアルバムを発表している。レコーディング参加作品は、NHK連続テレビ小説「らんまん」、映画「すずめの戸締まり」「天気の子」、オリンピック2020東京大会式典、他多数。2022年トップダンサー熊谷和徳氏の公演に参加する等、様々なアーティストと積極的に共演を重ね、幅広い音楽シーンからハープの新たな可能性を探求している。インターネットラジオOTTAVAプレゼンター。

木ノ脇 道元 / Dogen Kinowaki (Flute)

フルート奏者、作曲家。Cockroach eater共同プロデューサー、アンサンブルノード創始メンバー。2011年、自作品のみによる自作自演コンサートを開催。2014年、松井久子監督映画「何を恐れる」音楽監督。2016年、レーベルゲートよりクラシックの無伴奏フルート曲集「The organic space」配信。2017年、津村禮次郎、森山開次らと佐渡、小金井公園の新能の創作ダンスチームで、作曲と演奏を担当。東京芸術大学非常勤講師。神奈川県立弥栄高校非常勤講師。

チケット	前売: 7,000円 当日: 7,500円	チケットぴあ【Pコード:269-143】 https://w.pia.jp/t/metropolitanjazz-vol3/ ローソンチケット【Lコード:70972】 https://l-tike.com/metropolitan-jazz/ イープラス https://eplus.jp/metropolitan-jazz/	企画・プロデュース: エイトアイランズ株式会社 お問合せ: info@eight-islands.com
------	--------------------------	---	---